

展覧会「神戸芸術工科大学×ベラクルス州立大学 2014-2023 芸術交流展」の  
実施報告

REPORT ON THE EXHIBITION “INTERNATIONAL ART EXCHANGE EXHIBITION  
2014-2023 KOBE DESIGN UNIVERSITY × UNIVERSITY OF VERACRUZ”

谷口 文保 芸術工学教育センター 准教授  
さくま はな 芸術工学教育センター 准教授  
中山 玲佳 芸術工学教育センター 准教授  
戸矢崎 満雄 名誉教授  
蔦本 大樹 芸術工学部生産・工芸デザイン学科 実習助手

Fumiyasu TANIGUCHI Center for Arts and Design Education, Associate Professor  
Hana SAKUMA Center for Arts and Design Education, Associate Professor  
Reika NAKAYAMA Center for Arts and Design Education, Associate Professor  
Mitsuo TOYAZAKI Professor Emeritus  
Daiki TSUTAMOTO Department of Product Design and Crafts, School of Arts and Design, Assistant

要旨

本稿は、2023年6月に神戸芸術工科大学ギャラリー・セレンディップにおいて開催された展覧会「神戸芸術工科大学×ベラクルス州立大学 2014-2023 芸術交流展」の報告である。

神戸芸術工科大学芸術工学部アート・クラフト学科では、2014年からメキシコのベラクルス州立大学造形美術研究所と芸術を通じた研究交流を行ってきた。この展覧会は、ベラクルス州立大学造形美術研究所研究員の作品を紹介するとともに、両大学のこれまでの交流を振り返り、その意義とこれからの課題を検証するための取り組みであった。

本稿では、この展覧会を記録するとともに、両大学の交流が10年に渡って継続、発展してきた要因について考察した。その結果、「開かれた交流」「芸術を活かした交流」「大学を活かした交流」によって、それが実現したことが明らかになった。

Summary

This paper reports on the exhibition “International Art Exchange Exhibition 2014-2023 Kobe Design University × University of Veracruz” held at the Kobe Design University Gallery Serendip in June 2023.

The Department of Arts and Crafts, School of Arts and Design, Kobe Design University has been conducting research exchange through art with the Institute of Plastic Arts, University of Veracruz, Mexico, since 2014. This exhibition was an initiative to introduce the works of the researchers of the Institute of Plastic Arts of University of Veracruz, as well as to reflect on the past exchange between the two universities and examine its significance and future challenges.

This article documents the exhibition and examines the factors that have contributed to the continuation and development of exchanges between the two universities over the past ten years. As a result, it became clear that this was achieved through 'open exchange', 'exchange through art' and 'exchange through the universities'.

## 1. はじめに

2023年6月、神戸芸術工科大学ギャラリー・セレンディップにおいて、アート・クラフト学科教員が中心となって展覧会「神戸芸術工科大学×ベラクルス州立大学 2014-2023 芸術交流展」を開催した。(写真1、2) 同学科では、2014年からメキシコのベラクルス州立大学造形美術研究所<sup>1)2)</sup>と芸術を通じた研究交流を行ってきた。この展覧会は、上記の造形美術研究所に所属する研究員の作品を紹介するとともに、両大学のこれまでの交流活動を振り返り、その意義とこれからの課題を検証するための取り組みであった。

本稿では、上記展覧会の実施内容を記録するとともに、両大学の芸術を通じた交流が10年に渡って継続し、発展してきた要因について考察した。

本学は開学以来、国際交流に積極的に取り組み、世界各国の大学や研究機関と交流してきた。本展覧会も、こうした活動の延長上に成立した取り組みである。本稿が、本学の国際交流活動を促進するきっかけとなり、芸術を通し



写真1 展示風景



写真2 パネルディスカッション

た大学間国際交流の発展に寄与することを願う。

## 2. 展覧会開催の背景

2014年、神戸のアートNPO「C.A.P. (特定非営利活動法人 芸術と計画会議)」が開催した「メキシコと日本 それぞれの視点 移民と文化変容」展<sup>3)</sup>をアート・クラフト学科教員の谷口文保が訪問し、出展作家であったベラクルス州立大学造形美術研究所研究員の矢作隆一と出会い、研究交流が始まった。そして、2015年に谷口はメキシコの上記研究所を拠点に、2か月余りの海外研修を行った。<sup>4)</sup>そして谷口が帰国すると、今度は矢作を含む3名の研究員が神戸芸術工科大学を訪問し、本格的に大学間交流が始まった。

2014年から2023年までの主な交流は下記の通りである。

2014年 10月、神戸市内で開催された展覧会で、谷口が矢作と出会い、交流が始まる。

2015年 8月、谷口が、ベラクルス州立大学造形美術研究所を拠点に2か月余の海外研修を行い、アートプロジェクトや展覧会を各地で実施。<sup>5)</sup>

10月、造形美術研究所研究員のXavier Cózar Angulo 所長、矢作、Gerardo Vargas Frías が神戸芸術工科大学を訪問。

2016年 5月、矢作が神戸芸術工科大学大学院において講演とワークショップを実施。

2017年 3月、谷口が共同研究の打ち合わせのため、ベラクルス州立大学を訪問。

9月、アート・クラフト学科教員のさくまはな、中山玲佳がベラクルス州立大学造形美術研究所において、展覧会「MERCADO・市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学

科学生作品展」<sup>6)</sup>を開催。

11月、ベラクルス州立大学卒業生 Ingrid Elizabeth Martínez Buendía らが、神戸芸術工科大学において、展覧会「神戸芸術工科大学 日墨交流展 PREFABRICATED」を開催。

12月、神戸芸術工科大学において、展覧会「ベラクルス州立大学造形美術研究所 40周年記念展」を開催。

2019年 8月、中山がベラクルス州立大学の地域連携プロジェクトに参加し、壁画を共同制作。  
9月、さくま、中山がベラクルス州立大学ギャラリーにおいて、それぞれ個展を開催。  
12月、神戸芸術工科大学において、展覧会「日墨米3カ国交流展 旅のはじまり」を開催。造形美術研究所研究員の Josefina Anaya Morales が神戸芸術工科大学において講演とワークショップを実施。

2020年 4月、矢作がアート・クラフト学科客員教授(2020年～2024年)に就任。  
11月、矢作が神戸芸術工科大学の授業を、メキシコからオンラインで実施。

2022年 さくま、中山等が、Ingrid Elizabeth Martínez Buendía が企画する雑誌「アート&サイエンスマガジン PINGÜICA」に参加。

2023年 6月、神戸芸術工科大学ギャラリーにおいて、「神戸芸術工科大学×ベラクルス州立大学 2014-2023 芸術交流展」を開催。

### 3. 展覧会と関連企画の概要

今回の展覧会と関連企画の概要は下記の通りである。

#### 3-1 展覧会の概要

今回の展覧会は、ベラクルス州立大学造形美術研究所研究員の作品を紹介するとともに、10年目を迎えた両大学の研究交流の軌跡を振り返ることを目的に開催した。

なお、この展覧会は、ベラクルス州立大学造形美術研究所創立45周年を記念して企画された展覧会を、本学を含む関係大学が連携して全国巡回展に発展させたものである。メキシコから運ばれてきた作品は、造形美術研究所が交流している創形美術学校(東京都)、福井大学(福井県)、名古屋造形大学(愛知県)、神戸芸術工科大学(兵庫県)を巡回した。<sup>7)</sup>



図1 展覧会ポスター

本展覧会の企画運営の主な担当は、全体運営を谷口、パネル制作をさくま、作品展示を中山、ポスター(図1)制作を戸矢崎、全体補助を薦本が担当した。

題名：展覧会「神戸芸術工科大学×ベラクルス州立大学 2014-2023 芸術交流展」

期間：2023年6月16日～2023年6月22日

会場：神戸芸術工科大学ギャラリー・セレンディップ

主催：神戸芸術工科大学アート・クラフト学科

担当：谷口文保、さくまはな、中山玲佳、戸矢崎満雄、  
 蔦本大樹

内容：ベラクルス州立大学造形美術研究所研究員の作品  
 展示および、神戸芸術工科大学とベラクルス州立大学と  
 の10年間の研究交流を紹介する展示であった。(写真3、  
 4、5、6)

### 3-2 関連企画の概要

展覧会の関連企画としてパネルディスカッションを開  
 催した。当日は、ベラクルス州立大学の矢作、福井大学の  
 坂本太郎教授、名古屋造形大学の濱田樹里教授をパネリ  
 ストに迎え、多数の学生、教員等が参加した。

題名：パネルディスカッション「コロナ以降の大学間国際  
 交流について」

開催日：2023年6月19日 16:20~17:50

会場：ギャラリー・セレンディップ

パネリスト：矢作隆一、坂本太郎、濱田樹里、中山玲佳

モデレーター：さくまはな

司会：谷口文保

### 3-3 開催結果

本展覧会の来場者数は、6月16日から6月22日まで  
 の6日間でのべ157人であった。パネルディスカッショ  
 ンには、アート・クラフト学科を中心に学生、教員等、約  
 35人が参加した。

## 4. 展示内容

本展覧会は、「ベラクルス州立大学造形美術研究所研究  
 員の作品展示」と「10年間の研究交流を紹介する展示」  
 で構成された。また、関連企画としてパネルディスカッシ  
 ョンを開催した。その具体的な内容は下記の通りである。

### 4-1 ベラクルス州立大学造形美術研究所研究員の作品 展示

ベラクルス州立大学造形美術研究所は、造形美術につ  
 いて研究する機関で、16名が所属している。研究員は、

それぞれが国内外で活躍するアーティスト、デザイナー

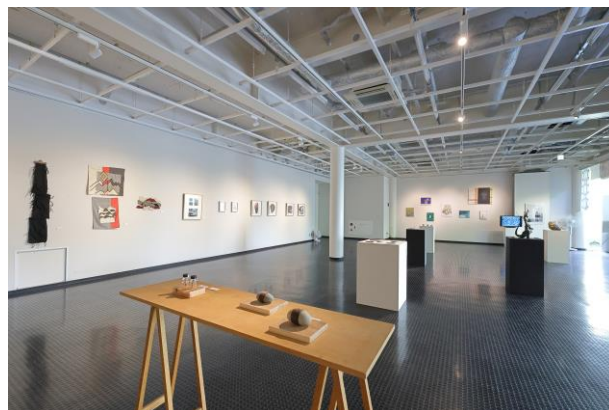


写真3 展示風景 (1)



写真4 展示風景 (2)

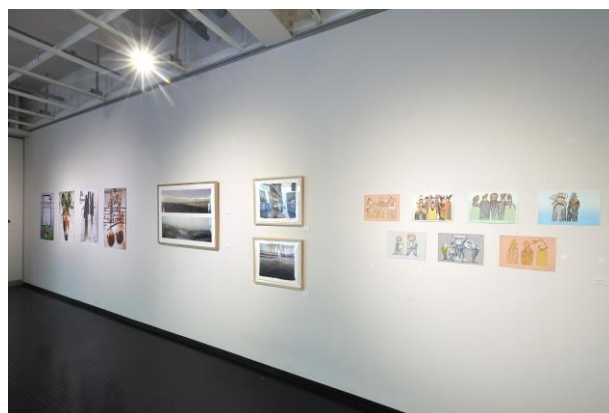


写真5 造形美術研究所研究員の作品展示 (1)

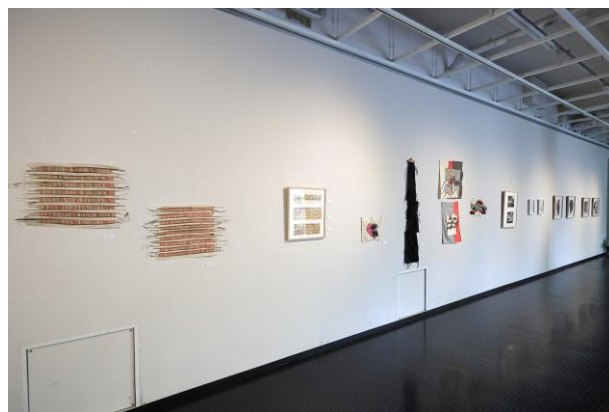


写真6 造形美術研究所研究員の作品展示 (2)



で、研究として作品制作や作家活動を展開している。

本展覧会では、造形美術研究所の研究員 15 名と 1 組の作品 30 点を展示した。作品の内訳は、グラフィックデザイン 6 点、写真 6 点、テキスタイル 6 点、ミクストメディア 5 点、シルクスクリーン版画 3 点、ドローイング 2 点、彫刻 2 点であった。作品テーマは、自然、風景、環境問題、コミュニケーション、アイデンティティ等、多様であった。作品については、パネルディスカッションにおいて、矢作から詳しい説明があった。出展した研究員は下記の通りである。

Abraham Méndez Gómez、Alfredo Ayala Aguilar、Beatriz Sánchez Zurita、Byron Thompson Brauchli、Citlalli González Ponce、Claudia Lorena Hernández Salvatori、Fernando Piña Campos、Gerardo Vargas Frías、Josefina Anaya Morales、José Manuel Morelos Villegas、Natalia Calderón García、Roberto Rodríguez Hernández、Ryuichi Yahagi、Sergio Domínguez Aguilar、TRES (Iliana Boltvinik + Rodrigo Viñas)、Xavier Cózar Angulo (アルファベット順、敬称略)

#### 4-2 10年間の研究交流を紹介する展示

ベラクルス州立大学と神戸芸術工科大学の10年間の研究交流を振り返る展示は、主要な6つのプロジェクトを紹介する形で構成した。「ベラクルス州立大学との交流の始まり」「MERCADO-市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科学生作品展」「ハラパ壁画プロジェクト JAPOMEX」「ベラクルス州立大学ギャラリーでの二つの展覧会」「日墨米3カ国交流展「At The Beginning Of The Journey 旅のはじまり」」「日墨交流 / アート&サイエンスマガジン PINGÜICA とのコラボレーション」である。それぞれ活動を説明するA1パネルを作成し、関連作品や参考資料とともに展示した。その内容は下記の通りである。

##### 4-2-1 「ベラクルス州立大学との交流の始まり」

2015年、谷口は神戸芸術工科大学海外研究員派遣制度

に基づいて、ベラクルス州立大学造形美術研究所を拠点に研究活動を展開した。

本展覧会では、A1パネル1点、モニター、作品(ショール)13点を展示した。(写真7)



写真7 「ベラクルス州立大学との交流の始まり」の展示

題名：「ベラクルス州立大学との交流の始まり」

期間：2015年8月3日～2015年10月5日

地域：ベラクルス州ハラパ市、メキシコシティ

参加者：谷口文保

所属：ベラクルス州立大学造形美術研究所 客員教授

内容：「メキシコにおけるコミュニティと共創する芸術創造に関する研究」をテーマに、アートプロジェクト、アートワークショップを実践し、調査、講演、展覧会等を行った。

##### 4-2-2 「MERCADO-市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科学生作品展」

神戸芸術工科大学の学生が制作した作品をベラクルス州立大学造形美術研究所ギャラリーで展示し、造形美術研究所研究員が制作した作品を本学ギャラリーで展示した。さらに、その活動を記録集にまとめた。<sup>8)</sup>

本展覧会では、A1パネル1点、モニター、作品(版画)3点、冊子1点を展示した。(写真8)

題名：「MERCADO-市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科学生作品展」

期間：2017年9月7日～10月4日

会場：ベラクルス州立大学造形美術研究所ギャラリー  
 出品者：学科学生 43 名、中山、さくま  
 内容：アート・クラフト学科 1 年生対象の授業「ドローイング」（担当：中山、さくま）において、紙版画を 1 人 2 点制作した。日本の生活文化の特色を表現するため、モチーフは、本学近隣の市場「湊川商店街」において探した。



写真 8 「MERCADO・市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科学生作品展」の展示

題名：「ベラクルス州立大学造形美術研究所 40 周年記念特別展」

期間：2017 年 12 月 14 日～2017 年 12 月 20 日

会場：神戸芸術工科大学エスパース KDU ギャラリー

出品者：ベラクルス州立大学造形美術研究所研究員 12 名

#### 4-2-3 「ハラパ壁画プロジェクト JAPOMEX」

ハラパ壁画プロジェクトは、ベラクルス州立大学造形美術研究所主催によるベラクルス州の森をテーマとする地域活性化プロジェクトである。日本とメキシコのアーティスト約 20 名がそれぞれチームを組んで同大学構内、近隣の店舗等において壁画制作を行った。神戸芸術工科大学から中山が参加した。

本展覧会では、「ベラクルス州立大学ギャラリーでの二つの展覧会」と合わせて、A1 パネル 2 点、モニターを展示した。（写真 9）

題名：「ハラパ壁画プロジェクト JAPOMEX」

期間：2019 年 8 月 12 日～8 月 30 日

場所：ベラクルス州立大学美術学部の通路壁面及び天井  
 参加者：中山、Carlos Rios、学生 8 名

#### 4-2-4 「ベラクルス州立大学ギャラリーでの二つの展覧会」

2019 年、さくまと中山は、ベラクルス州立大学造形美術研究所と連携し、同大学ギャラリーにおいて、それぞれの個展を同時開催した。<sup>9)</sup>



写真 9 「ハラパ壁画プロジェクト JAPOMEX」と「ベラクルス州立大学ギャラリーでの二つの展覧会」の展示

題名：「さくまはな展」、「中山玲佳展」

期間：2019 年 9 月 4 日～9 月 29 日

会場：Ramón Alva de la Canal（ベラクルス州ハラパ）

内容：さくまはなの個展「De un lugar a otro」の展示内容は、「Sociedad」ミニチュアのキノコ屋台 19 台、「Caminando por el borde, Xalapa」真鍮の家 27 点であった。さくまが訪れたアジアやヨーロッパ各地でみかけた屋台を着想源にして制作しているキノコ屋台シリーズと、国境や文化を超えて変容し続ける「家」という概念をテーマにしたインスタレーションを展示した。

中山玲佳の個展「Retratos」の展示内容は、アクリル絵具、鉛筆によるキャンバス作品「Being near and far」シリーズ 5 点、ポートレート作品 8 点、紙によるドローイング作品 38 点であった。「近くて遠い存在たち」を共通テーマに、日常と非日常、現実と夢、内側と外側の関係性に着目し、実在する人物の写真をベースに描いたポートレート作品を展示した。

#### 4-2-5 「日墨米3カ国交流展「At The Beginning Of The Journey 旅のはじまり」」

2019年、アート・クラフト学科は学科企画展として、神戸芸術工科大学ギャラリー・セレンディップにおいて、「日墨米3カ国交流展」を開催した。この展覧会は、アート領域教員が交流してきたベラクルス州立大学（メキシコ）と、クラフト領域教員が交流してきたペンランド工芸学校、イーストキャロライナ大学（アメリカ合衆国）に呼びかけ、実現したものである。展覧会には、3カ国から教員、学生等36名が参加した。展覧会テーマは「ジュエリー」とし、ジュエリー、工芸、彫刻、テキスタイル、版画、グラフィックデザイン、写真など、多様な作品が展示された。また、造形美術研究所のJosefina Anaya Moralesを迎え、関連企画として特別講義とワークショップを実施した。

本展覧会では、A1パネル1点とモニターを展示した。  
(写真10)



写真10 「日墨米3カ国交流展」の展示

題名：アート・クラフト学科企画展 日墨米3カ国交流展

At The Beginning Of The Journey 旅のはじまり

期間：2019年12月2日～12月6日

会場：神戸芸術工科大学ギャラリー・セレンディップ

出品者：神戸芸術工科大学（13名）、ベラクルス州立大学（10名）、ペンランド工芸学校（7名）、イーストキャロライナ大学（6名）

#### 4-2-6 「日墨交流 / アート&サイエンスマガジン

#### PINGÜICA とのコラボレーション」

2022年から日墨交流として参加している雑誌「アート&サイエンスマガジン PINGÜICA」と、そのきっかけとなった展覧会について、A1パネル1点、モニター、作品（金工4点、ガラス5点、陶5点、絵画7点）21点を展示した。（写真11、12）

#### 4-2-6-1 2017年から2023年にかけての日墨交流

メキシコで2019年から刊行されている「アート&サイエンスマガジン PINGÜICA」（図2）とのコラボレーションのきっかけは、2015年の谷口の海外研修に遡る。その際のメキシコ人アーティスト Ingrid Elizabeth Martínez Buendía と Miguel Angel Chavira Salas との交流が、のちに本学における「日墨交流展 PREFABRICATED」開催につながった。その後、両氏はアート作品と科学研究論文を融合した雑誌の発行を2019年から開始し、中山、さくまは2号から継続的に参加している。また、アート・クラフト学科卒業生も参加している。

#### 4-2-6-2 「神戸芸術工科大学 日墨交流展 PREFABRICATED」

期間：2017年11月9日～11月24日

会場：神戸芸術工科大学エスパース KDU ギャラリー

出品者：Ingrid Elizabeth Martínez Buendía,  
Miguel Angel Chavira Salas

内容：ベラクルス州立大学卒業生でアーティストの Ingrid Elizabeth Martínez Buendía と写真家の Miguel Angel Chavira Salas が神戸芸術工科大学において展覧会を開催した。展覧会初日には、学生を対象に両氏によるギャラリートークが開催された。

#### 4-2-6-3 「アート&サイエンスマガジン PINGÜICA」最新号における活動報告

雑誌名：アート&サイエンスマガジン PINGÜICA

期間：2022年12月～2023年2月

参加者：中山玲佳、さくまはな、芝崎由華、蔦本大樹、有





図2 「アート&サイエンスマガジン PINGÜICA」



写真11 「日墨交流 / アート&サイエンスマガジン PINGÜICA とのコラボレーション」の展示



写真12 PINGÜICA 参加作品の展示

本健司、大野美奈、藤原美南、田中亜寿美、鎌倉拓海<sup>10)</sup>  
 内容: 雑誌「PINGÜICA」は毎号テーマが設定され、それに沿った研究論文とその内容に呼応したアート作品を組み合わせて紹介している。例えば、参加アーティストは、環境保護やエネルギー、沿岸漁業等に関する論文からインスピレーションを得て、作品を制作する。

#### 4-3 パネルディスカッション

本展覧会の関連企画として、「コロナ以降の大学間国際

交流について」をテーマにパネルディスカッションを開催した。(写真13、14、15)

まず、司会の谷口から展覧会全体の趣旨説明が行われた。そして、パネルディスカッションに合わせて、展示作品の紹介が行われた。まず、Ingrid Elizabeth Martínez Buendía が、メキシコからオンラインで参加し、「アート&サイエンスマガジン PINGÜICA」について紹介した。続いて、矢作が造形美術研究所研究員の作品展示について、この展覧会が研究所の45周年を記念する企画であることを説明し、一つ一つの作品を丁寧に紹介した。さくまは、「PINGÜICA」に参加した本学教員、学生、卒業生の作品展示を紹介した。

続いて、モデレーターのさくまが中心となってパネルディスカッションが行われた。パネリストは、それぞれの国際交流の取り組みや海外経験をもとに、これからの国際交流について語り合った。

坂本は、セルビア、メキシコ、アメリカ、ドイツ等での彫刻制作の経験をもとに、海外では材料確保が重要であることを説明し、「自分の可能性が試される」と語った。また、コロナ禍の困難な状況下で展覧会を企画したエピソードを紹介し、新しい可能性が見えたと話した。



写真13 パネルディスカッションの様子(1)

濱田は、インドネシアに生まれ、日本人学校で学んだ経験を紹介し、そうした経験が日本画の制作につながったことを話した。そして、コロナ禍でのオンライン授業のエピソードを紹介した。学生の作品制作をオンラインで指導したが、実際に作品を見たとき、マチエールや色味が大



大きく違って見えたことから、実際に自分の眼で見ることの重要性を指摘し、海外にも実際に行くことが大事であると語った。

矢作は、コロナ禍で自宅待機となり、彫刻制作ができなくなって、絵画を描きはじめたエピソードを紹介した。また、メキシコと本学をつないで実施したオンライン講義が印象的であったと語った。矢作は、これからの国際交流について、メキシコの学生が海外渡航に意欲的であることについて話し、本学学生に積極性が大切であることを語りかけた。



写真14 パネルディスカッションの様子(2)



写真15 左から矢作、坂本、濱田

中山は、矢作が紹介したメキシコの学生の行動力に共感し、自分自身を振り返り、メキシコ留学のために積極的に行動した思い出を語った。

パネルディスカッションを通して、大学における国際交流の意義や価値を再確認することができた。そして、コロナ以降は、国際交流が学生にとってのこれからの可能性であることが明らかになった。

## 5. 考察

造形美術研究所研究員の多様な作品を紹介し、コロナ禍の中で滞りがちであった国際交流の再開を促進できればと企画した事業であったが、ベラクルス州立大学との交流を深めるだけでなく、福井大学や名古屋造形大学との連携にもつながった。パネルディスカッションを通して、芸術を通じた大学間の国際交流について、その意義やこれからの課題を議論できたことも有意義であった。あらためて、国際交流の再開が、大学や大学生のこれからの可能性であることを確認できたことは重要である。

また、今回の展覧会を通して、本学とベラクルス州立大学との10年間の研究交流を振り返ることができた。資料を整理し、パネルにまとめていく中で、芸術を通じた大学間の国際交流を継続できた要因を考察した。

両大学の交流は、個人的な出会いから始まって、両大学の教員、学生を巻き込みながら拡大し、組織的な交流へと発展していった。この取り組みが継続、発展できた要因は、3つあると考える。「開かれた交流」「芸術を活かした交流」「大学を活かした交流」である。

### 5-1 開かれた交流

遠隔地との交流を継続することは容易ではない。メキシコと日本をつないだ交流を続けることができたのは、矢作と出会えたことが大きいと考える。大学教員で、芸術家、コーディネーターである矢作は、メキシコと日本に幅広い人脈を持つ。精力的に両国をつなぐ活動を展開する矢作とのディスカッションから、新しいアイデアや構想が生まれ、実現していった。さらに、国際交流の豊かな経験を持ち、英語やスペイン語が堪能なさくま、中山の参画によって、両大学の交流は一段と深まった。本学とベラクルス州立大学だけでなく、福井大学や名古屋造形大学との連携が実現したことも重要である。

最初の交流を個人的な関係に留めず、開かれたものとし、多様な人々、組織をつないだ取り組みへと展開したことで、重層的な交流を形成していくことができた。それが、柔軟で持続的な活動を実現できた要因であると考えられる。

## 5-2 芸術を活かした交流

言語や文化の違う外国との交流において、芸術を通じた交流は相互理解を促進する有効な方法である。本学とベラクルス州立大学の交流が芸術を通じた活動であったことは重要である。

絵画、彫刻、工芸、デザイン、写真等を通じた国際交流は、言語を越えた直観的な共感やコミュニケーションを実現する。芸術家同士は、作品を介してディスカッションすることで、短い時間で信頼関係を構築し、友情を育むことができる。両大学の学内外で実施してきた展覧会や壁画制作、アートワークショップ等は、両大学の教職員、学生だけでなく、地域住民もつないだ。こうした成果は、国際交流における芸術の有効性や可能性を示している。

## 5-3 大学を活かした交流

持続的な国際交流を実現するためには、人材、施設設備、資金等を確保し続けなければならない。そのような観点から考えると、この取り組みが、大学という組織を活かした活動であったことは重要である。

多様な専門分野で活躍する教員や研究者。国際交流を支援する事務職員。国際交流に興味関心を持つ学生。展覧会や講演を開催するためのギャラリーや教室。作品を制作するための工房や工作機器。海外渡航や展覧会を実現するための研究助成。それらは、両大学の人材、施設設備、研究費等によって支えられた。両大学が持つ「資源」を積極的に活用し、活性化したことが、10年におよぶ継続的交流を実現できた要因であったと言えよう。

## 6. まとめ

今回の展覧会を通して、ベラクルス州立大学造形美術研究所研究員の多様で創造的な作品から、教育研究面で大きな刺激を得ることができた。また、今回の展覧会は、ベラクルス州立大学と神戸芸術工科大学の10年間の交流を振り返る機会となり、その継続と発展が、「開かれた交流」「芸術を活かした交流」「大学を活かした交流」によって実現したことが明らかになった。

## 謝辞

本展覧会開催にあたって、矢作隆一氏、坂本太郎氏、濱田樹里氏に大変お世話になりました。深く感謝いたします。そして、作品をご出品いただいたベラクルス州立大学造形美術研究所の皆様にも深く感謝いたします。

写真撮影：旦 昌弘

## 注

- 1) ベラクルス州立大学、「Universidad Veracruzana」、<https://www.uv.mx/>、2024年4月5日最終確認
- 2) ベラクルス州立大学造形美術研究所、「Instituto de Artes Plásticas」、<https://www.uv.mx/iap/>、2024年4月5日最終確認
- 3) 「メキシコと日本 それぞれの視点 移民と文化変容」(Program 1) 交錯する文化・死者の日をとおして  
期間：2014年10月26日～11月1日  
会場：CAP CLUB Q2  
特定非営利活動法人 芸術と計画会議、「10/26 メキシコと日本 それぞれの視点 移民と文化変容」、[https://www.cap-kobe.com/studio\\_y3/2014/10/25202856.html](https://www.cap-kobe.com/studio_y3/2014/10/25202856.html)、2024年4月5日最終確認
- 4) 谷口文保、「メキシコにおけるアートと社会の共創に関する調査 壁画、ソーシャルランドスケープ基金、「グアダルーペを探せ」」、『環境芸術⑮』、2015、p.13  
谷口文保、「メキシコにおけるコミュニティと共創する芸術創造に関する研究」、『芸術工学2016』、2016、pp.1-6  
<https://kobe-du.repo.nii.ac.jp/records/200>、2024年4月5日最終確認  
谷口文保、「メキシコの芸術と人々」、『環境芸術⑯』、2016、pp.51-54
- 5) 2015年9月10日、ベラクルス州立ハラパ彫刻公園において、「日本人芸術家3名による公開シンポジウム」が開催され、坂本太郎、谷口、矢作が登壇した。メキシコでの坂本との出会いが、今回の福井大学との連携につながった。
- 6) 中山玲佳・さくまはな・谷口文保、「基盤研究～芸術系大学における海外交流展の企画・運営・実施・ファイリングを用いた実践的な学びの場の創出～」、『芸術工学2018』、2018、pp.1-6  
<https://kobe-du.repo.nii.ac.jp/records/257>、2024年4月5日最終確認
- 7) 展覧会の巡回先は下記の通り。  
創形美術学校「姉妹提携校 記念企画展メキシコベラクルス州立大学造形美術研究所創立45周年記念展覧会」  
期間：2022年11月12日～11月26日  
会場：創形美術学校 ギャラリー・プント  
福井大学「日墨交流現代美術展」

期間：2023年4月18日～4月28日

会場：福井大学 アカデミーホール

名古屋造形大学「日墨交流現代美術展」

期間：2023年5月9日～5月27日

会場：名古屋造形大学 メインギャラリー

8) 中山玲佳・さくまはな・谷口文保、「日墨交流展 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科×ベラクルス州立大学造形美術研究所」、神戸芸術工科大学、2018

<https://reikanakayama.com/publication/>、2024年4月5日最終確認

9) さくまはな・谷口文保・中山玲佳・山崎均、「メキシコベラクルス州立大学ギャラリーでの個展開催および創作活動を主軸とした研究の可能性についての基礎的研究」、

『芸術工学2020』、2020、pp.1-6

<https://kobe-du.repo.nii.ac.jp/records/281>、2024年4月5日最終確認

10) さくま、中山以外の参加者は全員、アート・クラフト学科卒業生である。

#### 参考文献

1) 谷口文保、「芸術家と地域社会の共創に関する研究 — 日本、韓国、メキシコにおける支援型プロジェクトの事例から—」、『文化経済学』、第15巻第2号、2018、pp.32-41

2) 谷口文保、「アートプロジェクトの海外での応用展開に関する研究 大学連携による企画運営の方法と課題」、『混沌から創造へ 藍蟹堂藤原恵洋先生 九州大学退職記念誌』、2021、pp.53-61